

船舶事故調査報告書

平成28年8月18日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成27年7月27日 02時00分ごろ
発生場所	北海道余市町余市港 余市港北防波堤灯台から真方位158° 1,420m付近 （概位 北緯43° 12.0′ 東経140° 47.3′）
事故の概要	遊漁船シーランチは、南進中、岩場に乗り揚げた。 シーランチは、釣り客1人が負傷し、球状船首部に欠損等を生じた。
事故調査の経過	平成27年12月7日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	遊漁船 シーランチ、19トン 200-28161北海道、株式会社ブルス 16.60m (Lr) × 4.23m × 1.86m、FRP ディーゼル機関、617.80kW、昭和55年12月
乗組員等に関する情報	船長 男性 54歳 一級小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成19年6月21日 免許証交付日 平成22年12月9日 （平成27年12月8日まで有効）
死傷者等	軽傷 1人（釣り客A）
損傷	球状船首部に欠損等
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 高潮時
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、釣り客14人を乗せ、平成27年7月26日17時00分ごろ余市港を出港し、北海道 <small>ふるびら</small> 古平町丸山岬北東方沖6海里（M）付近の釣り場で釣りをを行い、27日01時00分ごろ釣りを終えて同港に向けて帰途についた。 本船は、船長が、操舵室左舷側で背もたれのある椅子に腰を掛けて単独で操船に当たり、約10.3ノットの対地速力で自動操舵により南南東進した。 船長は、それまで眠気を感じていなかったが、01時40分ごろ余

	<p>市港北方沖3M付近で針路を同港に向けた後、レーダーを操作した記憶があるものの、椅子の背もたれに寄り掛かって南進中、いつしか居眠りに陥った。</p> <p>本船は、同じ針路及び速力で航行を続け、02時00分ごろ余市港内の岩場に乗り揚げた。</p> <p>船長は、衝撃で目を覚まして釣り客及び本船の状況を確認し、自力で離礁できなかつたので知人の漁業者に携帯電話で救助を依頼した。</p> <p>釣り客14人は、連絡を受けて来援した僚船に移乗して余市港に搬送され、また、本船は、別の僚船に引き下ろされた後、自力で航行して余市港に戻った。</p> <p>釣り客の1人（以下「釣り客A」という。）は、本事故直後から痛みを感じており、後日、受診したところ、腰椎捻挫及び右臀部打撲傷と診断された。</p> <p>（付図1 事故発生経過概略図 参照）</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、出港時の喫水が、船首約0.8m、船尾約1.9mであった。</p> <p>本船は、ふだん、1日1回の運航を基本としていたが、繁忙期には1日2回運航することもあった。</p> <p>船長は、7月25日17時ごろから26日13時ごろにかけて、2回の運航を行っており、本事故当時、疲労を感じていた。</p> <p>船長は、ふだん、睡眠時間が約6時間であったが、出港する前の24時間の睡眠時間は約3時間で、出港後も睡眠をとっておらず、十分な休息がとれていなかったと本事故後に思った。</p> <p>船長は、椅子に腰を掛けて背もたれに寄り掛かったとき、周囲に他船を見掛けなかつたので、緊張感が緩んだと本事故後に思った。</p> <p>釣り客Aは、本事故時、前部甲板でクーラーボックスにまたがって仮眠していた。</p> <p>釣り客は、全員、救命胴衣を着用していた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、余市港に向けて自動操舵で南進中、単独で操船中の船長が居眠りに陥ったことから、余市港内の岩場に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、出港する前の24時間において約3時間の睡眠であったこと、出港後に睡眠をとらなかつたこと、自動操舵で航行していたこと、椅子に腰を掛けて背もたれに寄り掛かった姿勢をとり続けたこと、疲れを感じていたこと及び周囲に他船を見掛けず緊張感が緩んだことから、居眠りに陥ったものと考えられる。</p>

原因	本事故は、夜間、本船が、余市港に向けて自動操舵で南進中、単独で操船中の船長が居眠りに陥ったため、余市港内の岩場に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 船舶の運航に当たっては、適切な健康管理を心掛けること。・ 操船中は、楽な姿勢を続けず、手動操舵で操船したり、外気に当たるなどして居眠り防止を図ること。

付図1 事故発生経過概略図

